

# 総務文教委員会記録

令和4年8月17日（水）

10時33分～11時00分

全員協議会室

【委員】永見委員長、三浦副委員長、

肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員

【議長・委員外議員】足立議員、串崎議員、小川議員、上野議員、田畑議員

【執行部】砂川副市長

（地域政策部）邊地域政策部長、岸本政策企画課長

（弥栄支所）馬場弥栄支所長、三浦産業建設課長

【事務局】下間次長

---

## 【議題】

1 議案第51号 弥畝辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について 【政策企画課】

【議事の経過】

[ 10 時 33 分 開議 ]

永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名で、定足数に達している。

レジュメに沿って進める。先ほどの本会議で本委員会に付託された市長提出議案1件の審査に入る。採決は執行部が退席した後に行う。

1. 議案第51号 弥畝辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について

永見委員長

執行部から補足説明はあるか。

政策企画課長

ふるさと体験村維持管理事業だが、この事業についてはふるさと体験村の管理運営に要する経費として、一部国からの補助金の活用を予定していたが、予定していた補助金の不採択という結果に伴い、財源の振替と事業内容の一部追加を検討した結果、事業費の一部に辺地対策事業債を充てる総合整備計画をこの度策定するものである。なお、辺地債を活用した事業実施には、総合振興計画の策定と、島根県との事前の協議が必要だが、県との辺地に係る総合整備計画の協議は済んでおり、県からは異常なしとの回答をいただいているため、この度議案として提出するものである。

永見委員長

委員から質疑はあるか。

大谷委員

申請したところ不採択ということだが、不採択となった理由は、どの点が国の基準に合っていなかったのか。

弥栄産業建設課長

まず、今回の国の補助事業は全国公募されており、かなりの数の応募があったと聞いている。この事業の採択に当たっては、3年間実施できるが、複数年実施する申請者の2年目、3年目が優先されるというルールがある。浜田市は今回新規の1年目の申請だったので、そこで優先地区から外れていたのが一つある。

優先地区の採択が決定した後に、残りの予算が2億円くらいあったと聞いているが、そこに新規地区が30地区、手が挙がったと聞いている。結果的にはその中の2割程度しか採択されず、非常に狭き門だったということで、申請の内容について確認したが、不備があったわけではないと聞いている。ただ、予算的な事情もあってこういう結果になったということで、国からも直接連絡をいただいた。

大谷委員

申請内容に問題なかったことは理解した。この事業だが、総合整備計画ということではあるが、使うところは体験村にかかわるところが大半のように見受けられる。予算の枠組みに問題はないのか。辺地債を使うということで、使えるものは大いに使っていきたいとは思いますが、そもそも適合しているか。

政策企画課長

総合整備計画の内容は、全てふるさと体験村維持管理事業に充てられるものである。内容について適切であるかどうかというのを島根県と事前に協議したところ、問題ないという回答をいただいている。

佐々木委員

3月の当初予算、今回の補正予算で出てきている体験村の維持管理事業を、今回の辺地債の計画に入れたということでしょうか。

弥栄産業建設課長

今回は、体験村の維持管理事業の中の施設改修工事の部分が辺地債の

- 計画に当たっている。
- 佐々木委員 工事ということなので、維持管理費を除いた金額がここに示されているということだと思う。当初予算のときにも出ていた特定財源1,900万円とはどのような財源か。
- 弥栄産業建設課長 まちづくり振興基金から充当している。
- 佐々木委員 一般財源部分の1,700万円を、今回トイレ改修が増えているので、これまでは国の補助金をといるところが辺地債に変わったということか。
- 弥栄産業建設課長 そのとおりである。
- 佐々木委員 当初は国の補助金を充てるということで、前回のどこかの説明で、結果的に辺地債を使ったほうが持ち出しが少なく済んだということがあったが、先ほど県の許可は下りたということだが、当初から辺地債という考え方はできにくかったのか。
- 弥栄産業建設課長 ご指摘の点は確かにそういった面もある。当初、そこまで検討できていなかったこともあるが、まず国の補助事業を活用することで先行して動いていたのでそういう形になった。今回改めて他の財源を検討した結果、県ともこのような協議になり、今回の財源振替になった。
- 副市長 財政的な見地でお話しする。基本的に補助金はもらえるものなので、予算を組むときにはまず補助金や交付金等を優先するのが原則である。辺地債や過疎債は有利な起債だが、あくまでも借金の一つなので、基本的には公債費比率の影響が出る。金額が小さいのでそうでもないが、まずは補助金等が使えるものはそれを使うのが財政的な考えで、残ったものは有利な起債を使うという考えでやっている。最初から辺地債があるのは知っていたが、補助金とまちづくり基金を使うことで一般財源を出さないことでやっている。国の補助金の一次採択は不採択で、国からは二次募集もあると言われたが、それは工期的な問題が出てくるということで今回は見送り、地域が辺地地域なので、過疎債も使えると県から言われたが、過疎債はほかの事業にも多く使えるが、辺地債は地域が限定されており、充当率も高いため辺地債を使う。併せて、トイレの改修のこともいろいろご意見をいただいたので、辺地債が使えるのであればその増額分も含めて県に協議して今回認めてもらったという流れになっているので、最初から辺地債を使うことよりも、できれば補助金を使いたかった。
- 佐々木委員 副市長が言われた考え方はよくわかる。そういう流れが普通だと思うが、市の負担がどうかという観点からすると、住民を含めて、持ち出しが少ないほうが当然よいに決まっているわけで、特に辺地債が一番有利な起債なので、そこをまずは念頭に入れてやるべきではなかったのかと、後づけで言うようだが感じた。一般論で考えた場合に、より負担が少ないものを探して充てるのが理解されやすいのではないかと思った。
- 副市長 一つ説明が漏れていた。辺地債は令和3年度も金城地域で1件使っている。これも100%要求額はついてなかった。県との事前協議で、辺地債の枠もかなり厳しいのではないかということもあった。おっしゃるとおり、辺地債を使ったほうが市の持ち出しは少なく済むので、その辺をしっかりと置いてやらなければいけないことは改めて理解していきたい。
- 西田委員 体験村が新たに来年度オープンという計画になっている。辺地債で改

弥栄産業建設課長

修事業をして、計画的にこれから改修が進み、まずは施設が完全にリニューアルできた状態から、運営の中身をしっかりとランニングする期間も必要だと思う。我々は、今度こそ体験村が存続し、失敗しないように望んでいる。今の状況からこういったペースで進み、新たにどういった人材が加わって、どういった事業の中身になるかも具体的に、なかなか一般市民に見えていないので、これから見えてくるのかなと想像するが、これから来年度のオープンに向けてのペースはどのように考えているか。

ソフトとハードの両面があると思う。ハードについては当初予算がこのようになっており、8月の頭で契約を結び、来週から工事に入る予定である。年内には施設の改修を終える計画になっており、その後の試運転等も含めて、ハード的には年度内には準備が整うと思う。

ソフト、運営体制の面では、一旦地元で運営計画をつくっているが、その磨き上げということで、ジェイアール東日本企画に入ってもらっている。6月から弥栄にお越しいただき、今月はワークショップの3回目を予定している。今、住民も含めて、いろいろな洗い出しというか、運営計画のブラッシュアップのための素材を見つけ出しているところで、それを秋口からまとめていく作業になる。年内をめぐりにその辺も仕上がってくるのではないかと考えている。今は十分なものをお示しできないが、スケジュールどおりには進んでいるので、もう少しお待ちいただければと思う。

西田委員

来年度のオープンの予定に何とか無理をしてでもこぎ着けるために頑張るといふよりも、オープンした先、これが継続するような、満を持してオープンするという、湧き上がるものがあるってオープンするくらいの、オープンのスタートラインにはすんなり行って、そこからいかに爆発するかというくらいの準備をしてもらいたい。

弥栄産業建設課長

ジェイアール東日本企画に入っていた中에서도、当初のオープンに向けての準備、体制づくりもそうだが、中長期的な実施計画もしっかりつくろうということで進めているので、おっしゃるような先のこともしっかり計画を立てて、それを実行できるような体制、サポートをしっかりしていきたい。

佐々木委員

今回、トイレ改修は別の補正予算で出ている。先ほど、辺地債の活用がなければトイレ改修事業もなかったのではという話が出たが、そういう考え方でよいか。

弥栄産業建設課長

当初予算は、予算的にも幾らでもかけられるわけではないので、再開に当たっての優先度を考えて計上した。その後、こういった財源の確保ができるということで、今回そのあたりを追加している。

佐々木委員

だったら余計にこちらを優先すべきだったのではないかとと思うが、順番として、まず補正でトイレの改修工事の追加が決まっていなくて、ここで整備計画の事業費を通すという順番はどうか。

副市長

先に総務文教委員会で採決をして、次に予算委員会という流れになるが、基本的には同じ本会議で最終的に表決するので、同時に表決していただくということで問題ないと思う。ただ、辺地計画を認めていただいても予算が通らなければ執行できないので、計画は準備しておいて、次の補正でもう一度出すということもあるかもしれない。通常は、例え

ば過疎債なども、先に補正を組んで、計画は後から出すことが多い。ただ、基本的には県の了解を取ってから計画をつくる。国の補助金と同じように、予算は通ったが計画が通らなければ財源はどうするのかという議論が起こるので、本来は計画が通って予算かもしれないが、通常、県は辺地債も過疎債も最終的には一括して年度末に決定する。今は内示をもらった段階だということで、今回は、同時議会で問題ないのではないかと思う。表決する本会議には一緒に出すということでご理解いただきたい。

佐々木委員

想定をしながら辺地債の計画を認めるというのは、やはり順番がどうかと思う。通る予算だとは思いますが、仮定しながら次の段階の事業費を審議して決めるという流れは、正式な流れではないのではないかと思う。これは執行部側だけの問題ではないのかもしれないが。

三浦副委員長

辺地債を活用することによって、当初予算の当時から計画の中身を変更した点はトイレの改修のみか。

弥栄産業建設課長  
三浦副委員長

事業費についてはトイレ改修のみである。

今回の計画書に掲載されている事業費は3,600万円で、当初予算の事業費とは大きく異なるが、トイレの改修がそれに当たるとなると、ほかの差額はどうか考えればよいか。

弥栄産業建設課長

当初予算の中には、当初示した工事の金額と、先ほど説明した維持管理の予算がある。当初予算の金額から維持管理費を引いて、それに今回の屋外トイレの追加を足すと、この計画書にある事業費の数字になる。

政策企画課長

補足だが、当初予算は3,243万9千円、この内訳は工事費が2,896万7千円、維持管理といった事務費相当分が247万2千円である。この247万2千円は変えずに、工事費の金額を約2,900万円から3,600万円に増やした。この計画書に上げている3,609万4千円は工事費だけの金額である。

永見委員長

ほかに質疑はあるか。

( 「なし」という声あり )

それでは、執行部はここで退席されて構わない。

《 執行部退席 》

永見委員長

採決の前に、この件について自由討議を行うべきかどうか伺う。あれば趣旨及び目的を示して提案をお願いする。

( 「なし」という声あり )

ないようなので、これより議案1件について採決を行う。

○議案第51号 弥畝辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について

本案は原案のとおり可決すべきものと決することにご異議ないか。

( 「異議なし」という声あり )

異議なしと認め、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決した。

ただいまから委員長報告を作成するが、正副委員長に一任ということでよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

それでは、正副委員長で作成し、タブレット端末の議案等資料の委員長報告フォルダに入れるので確認をお願いします。  
以上で総務文教委員会を終了する。

[ 11 時 00 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。  
総務文教委員長 永見 利久